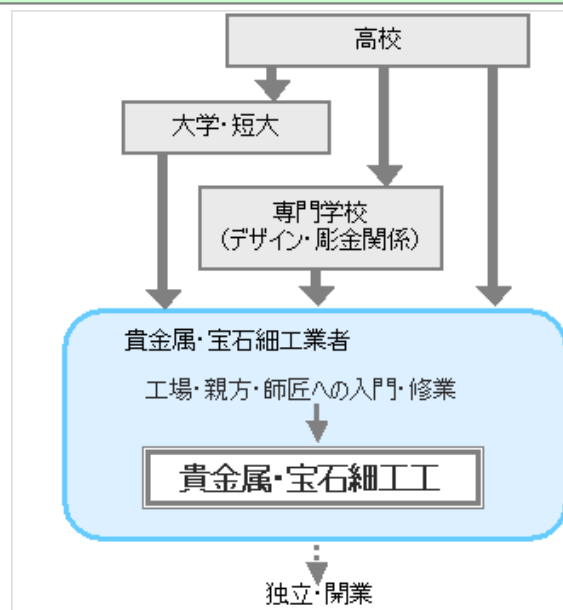


## どんな職業か

- 金やプラチナなどの素材を使い、ダイヤモンドやルビー等の宝石類をあしらって美しいジュエリーを作り上げていく。
- 伝統的な技法などを用いてひとつの製品を仕上げる「手づくり」とキャスト（鋳造）技術、プレス加工、自動編み機（ネックレス）、カット技術などを用いて機械を利用して作る「量産」とに分かれる。手づくりを行う人を「クラフトマン」や鋳職人と呼ぶ。金やプラチナなどの合金地金を作ることから始まって、鍛金、やすりがけ、糸のこ作業、へらがけ、ろう付け、彫金、研磨、石留めなど様々な技術を使って、宝飾品を作り上げる。
  - 機械を使う場合も基本的な製作技術は同じである。鎖を編んだり、貴金属や宝石のカットは機械を使って行うが、原型づくりやろう付けなどは手作業となる。貴金属の素材は他の金属と異なり、ねばりがあって融点が比較的高いという特性をもっているため、大変難しい加工の仕事であるが、資産的価値や創作性が高い素材と製品であり、誇りをもって作業にあたっている。

## 就くには

- 入職にあたって、特に学歴や資格は必要とされない。学校を卒業してすぐ入職する場合のほか、他の職業からの転職も可能である。最近は新規入職者の中にデザインや彫金関係の専門学校卒業生が増加しているが、特にこれらの学校を卒業したからといって入職後有利ということはない。
- 関連する資格として、厚生労働省が実施している技能検定「貴金属装身具製作技能士」があり、合格者は技能士の称号を与えられる。
- 感性を養い、技術・知識を習得して一人前になるには、先輩を見習いながら少なくとも3年ほどの修業が必要であるといわれており、ものづくりに興味がある人、仕事が丁寧である人、美的センスのある人が求められる。



## 労働条件の特徴

- 県別では、東京及び隣県、大阪、愛知、三重、山梨に製造業者が多くみられ、家内工業的なところが多い。量産工場は最大300名程度である。
- 男女比は、男性は62%、女性は38%で、近年は女性が急増している。職人的な技能が求められるため、いったんこの業界に入ると、職場は変わっても業界からは離れない傾向がある。熟練工（10年以上）になると、独立開業の気運が高い。
- 労働需要は、業界全体としては落ち込んではいないが、デザインや加工技術の高度化、他業界技術の応用、欧米技術の研究に努める一方、熟年技能者の高齢化や退職が進み、若年で積極的な人材が求められている。

## 参考情報

**関連団体** 社団法人 日本ジュエリー協会  
<http://www.jja.ne.jp/>

**関連資格** 貴金属装身具製作技能士 ジュエリーコーディネーター